

平成 27 年度 事業報告

本部 開地保育園の経営
デイサービスいろはの経営

平成 27 年開地保育園事業報告

1. 運営処遇 園児の入所希望申し込みにより市福祉事務所の承認と決定によって決まる。園の運営は運営費によって行われる。
2. 職員体制 常勤 13 名 (園長 副園長 保育士 9 調理 1 栄養士 1)
非常勤職員 (保育士、1 保育補助 1・バス運転 1) 嘱託医 2
3. 園児数 定員 80 名
年間児童数 乳児 50 名 1～2 歳児 244 名 3 歳児名 207
4～5 歳児 371 名 計 872 名

4. 開園・勤務体制

午前 7 時 15 分から午後 6 時 45 分まで開園を行った。(開所時間延長促進事業) 職員の勤務は、週 40 時間であるが月の割り振りは、勤務割当により行った。

5. 保育計画 園児は 3 歳以上児を 3 グループに分け、たてわり保育を実施した。各年齢別保育は、月 2 回 3 クラスで実施するとともに年長児は毎日午後実施した。たてわり、年齢共に年間指導計画にもとづき実施した。森の保育園、運動遊び、農業体験、英語学習を中心に行った。また地域密着、地域交流のため、毎日のデイサービスいろはへ交流、オープンキャンパスを行った。

6. 保育特別事業

延長保育促進事業
障害児推進事業
保育所地域活動事業
一時保育事業
子育て支援センター事業

7. 安全管理

1) 園舎の管理

園舎の保安全管理には十分注意し、園児の安全を期し諸器具等の点検、危険の除去に配慮を行った。遊具点検業務委託契約を実施した。

2) 備品の管理

備品、設備器の維持に全職員が分担して維持、管理を行った

3) 防災安全管理及び警備

災害に対し安全を期し、平素避難訓練、交通安全の指導を実施した。
盗難火災の通報連絡等警備会社に依頼している。

4) 衛生管理

健康管理、園児の発育、健康状態把握のため、健康診断、体位測定等実施し、日々の様子について保護者との連絡を密に行った。

5) 給食管理

食中毒には、最大の意を払い食品を扱い、調理用具等の扱いに注意し扱者の健康検査等定期に行い防止予防に努めた。

8. 備品、保育整備

バスを購入 エアコン

9. 研修

- ・各種研修には特別のことがない限り参加し、また、自主研修の会を持ち保育の技術、向上を行った。
- ・職員会議は月1回定期的に行い、保育内容、行事实施研修会伝達等
行い意思疎通を図った。
- ・軽度発達障害研修
- ・保育指針研修
- ・童歌、手話などの研修
- ・野菜作りの研修
- ・森についての研修
- ・運動遊びについての研修

10. 対外関係

本年は地域支援活動に力をいれ高齢者交流、小、中、高、大学校との交流を行った。

保護者との地域連携を保ち、保護者会の協力を得て円滑に保育が行われた。

子育て支援拠点事業の経営（センター型）

1. 職員 3名 常勤1名 非常勤2名

2. 利用曜日 月曜日から金曜日（週5日）

利用時間 開地保育園子育て支援センター8時30分~1時30分（部屋の開放は相談
に応じる）

3. 年間計画

1. 子育て家庭に支援便りを月 1 回発行
2. 育児相談随時受け付け
3. 理学療法士による体のケア
4. 保育園との交流行事
5. 離乳食、手作りおやつ作り
6. リズム遊び
7. 季節の行事遊び
8. 育児サークル支援
9. 手作りおもちゃ
10. 身体測定、誕生会
11. 市役所主催離乳食教室託児
12. 市役所主催赤ちゃん広場・よみきかせ
13. ふれあい子育てサロン
14. 出張講座

一時預かり事業の経営

緊急に家庭で見られなくなった人、育児に疲れた人のリフレッシュをするための支援を行った。

【運営目標】

- 世代間交流の充実
認知機能面、精神面の向上を目的に、同施設敷地内にある保育園園児との交流を行います。
- 個別機能訓練の実施
専従の理学療法士が一人ひとりの身体機能に合わせたリハビリを行います。
- 日常生活がリハビリ
身体機能、認知機能を十分に把握し、職員同士が共通理解のもと、さらなる向上をめざし、生活できるよう支援します。
- 地域で安心した生活の提供
利用者が利用者らしく住み慣れた環境で生活できるようにデイサービスで支援します。

● 【実績報告】

- ・平成26年5月12日より開所し、月曜日～金曜日（祝日営業）に開所した。
年間利用人数は 3332名であり月ごとの利用人数は下記の通りとなった。

平成26年前半	総人数（人）	平成26年後半	総人数（人）
4月	259	10月	281
5月	260	11月	281
6月	279	12月	269
7月	280	1月	252
8月	266	2月	301
9月	270	3月	334
		年間	3332

- 世代間交流の充実について
 - ・開所開始より同施設敷地内にある保育園園児との交流を行った。
 - ・交流時間は約20～30分を行った。
 - ・内容は、歌・踊り・折り紙・本の読み聞かせ・製作等を行った。
 - ・歌の交流では園児と利用者で同じ歌の練習し全員で歌うという取り組みを行い利用者様にも目標を持っていただき意欲の向上にもつながった。
 - ・特に利用者様の誕生日には園児とみんなでお祝いをするというスタイルで利用者からはとても好評であった。
 - ・季節ごとの行事を園児と行い豆まきでは鬼に変装したスタッフに利用者や園児と一緒に豆まきを行った。

- ・利用者と園児の交流ということで感染症には十分配慮して活動を行った。

●個別機能訓練実施

- ・理学療法士・作業療法士による個別機能訓練をお一人おひとりに合わせて行った。
- ・在宅での生活を一番に考え在宅で安全、安心して生活できるよう支援を行った。
- ・個別機能訓練での問題点をケアマネジャーと連携をとり福祉用具などの検討も行った。

●日常生活がリハビリ

- ・個別機能だけでなくそれ以外のデイサービスにいる時間を機能訓練ができるよう理学療法士が評価し、一人ひとりに合わせた道具を使いお一人でできる機能訓練を提供した。
- ・ご自宅で少しでも運動していただくために自主訓練用紙を個別で提供を行った。

●地域で安心した生活の提供

- ・地域でできるだけ長く生活できるよう支援を行った。
- ・当施設のある地域にはデイサービスがなく地域のデイサービスになるため活動を行った。その結果、利用者地域分布は当施設のある地域の利用者割合が一番多く少しずつ地域に根付いたデイサービスになっていると考えている。

●今後の課題

- ・地域に根付いたデイサービス作りをしていきたい。
- ・利用者に安全に安心して在宅で生活していただくために高い知識と技術をスタッフが持ちより質の高いサービスを提供していきたい。
- ・利用者の機能を最大限発揮して生活できるよう支援を行っていきたい。
- ・安定した利用者の確保をしていきたい。